

# 患者の皆様へ

2020年5月1日

千葉大学医学部附属病院消化器内科

現在、消化器内科では、「胃食道逆流症の病態評価および長期経過」研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では胃食道逆流症の精査目的に食道内圧検査と24時間pH・インピーダンス検査を受けられた患者さんの診療情報などを利用させていただきます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。万が一、誤った情報が使われていた場合には情報の訂正・追加・削除といった対応をします。また、場合によっては研究院長・病院長の判断により情報の利用を停止します。

## 1. 研究課題名

「胃食道逆流症の病態評価および長期経過」

## 2. 研究の意義・目的

胃内容物の食道内への逆流によって胸やけなどの不快な症状を起こす“胃食道逆流症（GERD）”は、近年急激に増加しております。逆流を起こすメカニズムは徐々にわかってきておりますが、いまだ不明な点も多いのが現状です。特にGERDの原因の一つと考えられている食道の運動障害がなぜおこるかに関してはほぼわかっておりません。またGERD患者さんの長期経過についても不明な点が多いのが現状です。そこで今回我々は、GERDの病態評価をおこなった患者さんを対象に、患者さんの生活習慣や内服薬などとGERDとの関連性、食道運動障害とGERD症状との関連性などを検討し、胃食道逆流症の病態・原因を明らかにすることを目的としています。この検討を行うことで、GERDの原因が明らかとなれば、今後の適切な治療選択が可能となると考えられます。

## 3. 研究の方法

診療録に記載されている患者背景（性別、年齢、BMI[Body mass index]、併存疾患、内服薬、嗜好[飲酒歴、喫煙歴]）、食道内圧検査結果と、pH・インピーダンス検査で得られた結果との関連を調べる

対象となるカルテの期間：2013年9月から2023年12月

4. 研究への参加拒否について

ご協力頂けない場合には、結果の公開前であればいつでも対応しますので、ご遠慮なくお申し出ください。

5. 個人情報の取り扱い

この研究で得られた個人情報が外部に洩れることのないようデジタルデータは千葉大学大学院医学研究院消化器内科学講座に設置されているパソコン内にて厳重に管理いたします。また、研究成果の発表にあたっては、患者様の氏名などは一切公表いたしません。

文部科学省、厚生労働省が定める「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成29年2月28日一部改正）に基づいて掲示を行っています。

**研究実施機関** : 千葉大学医学部附属病院消化器内科

**本件のお問合せ先** : 医学部附属病院消化器内科

**医師** 松村倫明

**043 (222) 7171 内線6672 (消化器内科受付)**